

参考：輸液療法

- 脱水は腎機能悪化や血栓症発症のリスクになる
- 心/腎疾患がなければ 1日1500ml 程度の水分摂取を目標とする
- 可能な限り経口補液で対応するが必要に応じて輸液療法を行う

参考：深部静脈血栓症の予防・治療

①腎機能を確認する（ $CCr \leq 15$ は未分画ヘパリン持続静注を推奨）

②出血リスクを評価する

③投与目的・経口摂取できるかで投与薬剤・投与量を決定

【予防量の処方例：適応外使用であることに留意する】

- 内服可能：リバーロキサバン（イグザレルト®） 10mg 1日1回
- 内服不可能：エノキサパリン（クレキサソ®） 40mg 1日1回 皮下注
（ $15 \leq CCr \leq 30$ の場合は 30mg 1日1回 皮下注）

【治療量の処方例：可能な限り病院での評価・治療が望ましい】

- 内服可能：リバーロキサバン（イグザレルト®） 15mg 1日2回（3週間後に減量）
- 内服不可能：フォンダパリヌクス（アリクストラ®） 5mg 1日1回 皮下注
（体重 50kg 以上で 7.5mg）
（ $30 \leq CCr \leq 50$ の場合は出血に十分に注意をする）

参考：酸素療法

- 高齢者の人工呼吸器導入の原因として呼吸筋疲労も多い
- SpO₂ 低下や呼吸促迫があれば躊躇せず酸素を導入すること
- SpO₂ 低下は基礎疾患がなければ 92-94%以下の場合とする
- SpO₂ が保たれていても呼吸数が著増している場合は注意が必要
- 基礎疾患がなければ SpO₂ 96%・呼吸数 16回/分を目標に酸素投与量を調整する
- 特に呼吸器疾患や神経難病などの基礎疾患がある患者に対しては頭痛/発汗/顔面紅潮など CO₂ ナルコーシスを疑う所見に注意する
- 酸素療法開始の際は対面診療を行っていることを原則とする

参考：その他の対症療法

- 発熱：高齢者や基礎疾患を抱えた方は発熱の期間が長期になると体力を消耗し、食事・水分摂取不良や ADL 低下の原因となるため症状に応じた積極的な解熱を行うことが望ましい。

解熱薬はアセトアミノフェンを優先的に使用する。

（処方例）アセトアミノフェン錠 200mg 1回 2-3錠 発熱時

- 咳嗽：持続的な咳嗽や夜間入眠を妨げる程度の咳嗽がある場合は鎮咳薬の使用を検討する。

（処方例）デキストロメトルファン錠 15mg 1回 1錠

- 嘔気：新型コロナウイルス感染症は消化器症状を引き起こすことがある。嘔気による食事・水分摂取不良がある場合は制吐剤の使用を検討する。

参考：ステロイド薬の投与

- 投与基準：SPO2 低下(92-94%以下)があれば投与する
- 投与量：
 - 内服可能：デカドロン錠 0.5mg 12錠分1(朝食後)
 - ※デカドロン錠 4mg 1.5錠分1も可
 - ※体重 40kg未満では 0.15mg/kg/日に減量する
- 内服不可能 デキサート注射薬 6.6mg1A 静注
- 投与期間 10日間 or フォロー終了まで
 - ※糖尿病患者は血糖コントロールが必須
- ステロイド開始前の空腹時血糖 $\geq 180\text{mg/dl}$ のとき
 - 持効型インスリン(例 ランタスXR®) 4単位/day から開始(厳格な血糖コントロールは不要)
 - ※その他、消化性潰瘍やせん妄への対応を個別に検討する

参考：緩和ケア

患者が自宅での緩和ケアを希望した場合、以下の方法で積極的な症状緩和を行う

【発熱】

- 発熱に伴う倦怠感がある場合に使用する
 - (処方例①) アセトアミノフェン錠 200mg 1回 2-3錠 発熱時
 - (処方例②) アセトアミノフェン(アセリオ®) 1000mg 静注

【呼吸苦】

- 呼吸困難の程度・呼吸数・悪心/嘔吐・過鎮静・せん妄・レスキューの使用回数などを考慮し投与量を調整
 - (処方例①) モルヒネ速放剤 2.5-5mg 1日3-4回
 - (処方例②) モルヒネ徐放剤 10mg 1日2回
 - (処方例③) モルヒネ持続皮下注射 0.5mg/時
 - (処方例④) オキシコドン持続皮下注射 0.5mg/時

※皮下注射の場合は経口投与量の半量から投与開始する

※腎機能低下時(eGFR ≤ 30)では上記の半量から投与する

※嘔気・便秘対策も必要に応じて行う

【十分量のオピオイドで軽減しない苦悶感】

- (処方例①) ジアゼパム(セルシン®錠) 5mg 1回 1錠
- (処方例②) ミダゾラム持続皮下注射 0.5mg/時

【せん妄】

- (処方例①) クエチアピン(セロクエル®錠) 25mg 1回 1錠
- (処方例②) チアプリド(グラマリール®錠) 25mg 1回 1錠
- (処方例③) ハロペリドール(セレネース注®) 5mg 皮下注

※ハロペリドールは筋注も可